

IV 研究計画

研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫と充実

～ えがおで学び、おもいがつながる授業を目指して ～

1 研究の概要

(1) 児童の実態

本校は大仙市の中心部に位置する県内でも有数の大規模校である。児童は明るく素直であり、行事や縦割り活動等の全校活動では、のびのびと力を発揮し、大集団で活動するよさを体験することができている。しかし、自分に自信をもてずに人間関係づくりに困惑したり、粘り強く取り組むことに苦手意識をもったりする児童が少なくない。中には、自信のなさから自分の力を思う存分発揮できない児童も見られる。秋田県学習状況調査の結果を見ると、基礎的・基本的内容が定着していない児童が見られ、確実な定着の徹底を図る必要がある。また、同調査の児童質問紙の自己有用感・自尊感情の結果から、自己有用感がより高まる手立てを考えていく必要がある。

(2) これまでの研究の経過

本校は、これまで国立教育政策研究所「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」についての研究推進拠点校として、文部科学省の委託を受けて研究を進めてきた。

令和元年度は、「知識や技能を活用したり知識等を相互に関連付けたりして深い理解につなげる学習活動」を中心に研究を進めた。特に、「見方・考え方」を焦点化し、「単元や授業の中で働かせたい『見方・考え方』」、「単元で付けたい力を身に付けた児童の姿」を明確にした授業改善に取り組んできた。

令和2年度からの3年間は「『見方・考え方』を明確にした単元構成」と「知識と知識をつなぐ学び合い」、そして「『見方・考え方』を働かせた学び合いの充実」を重点とし、取組を進めることで、自己の学びを深め、身に付けたい資質・能力の育成を目指してきた。また、各教科等において「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識した活動や、生徒指導の実践上の視点を踏まえながら各教科の特質に応じた取組をすることで、主体的に学び、自己の学びを深められる児童の育成に力を入れてきた。その結果、以下の成果を得ることができた。

- ・学習の目的や身に付けたい力を明確して単元のゴールを設定することで、ポイントを絞った学習活動を設定することができた。
 - ・前単元や前時との比較など学習のつながりを意識させることで、これまでに身に付けた力・これから身に付ける力が明らかとなり、主体的な学びにつながった。
 - ・デジタルコンテンツやメタモジなどのICTの活用が、考えの交流や共有化に効果的であった。
- また、以下の改善点が見えてきた。
- ・個に応じた指導を工夫したり、様々な他者と関わって思いを表現したりする場の設定
 - ・基礎基本となる学習内容の定着の徹底

(3) 今年度の方針

今年度も、これまで継続して取り組んできた「見方・考え方」を働かせた学び合いを基本として研究を進めていく。さらに自分の学びに満足感や充実感を感じ、生き生きと笑顔で学び続ける児童の姿の実現を目指し、児童の興味・関心を生かした学習計画を立てていく。その際には、各教科の特質や児童の実態に応じた学習形態や学習のゴールを設定することで児童の意欲を引き出すとともに、学級の友達だけでなく他学級や異学年、専門家との交流を通して自分の思いや考えを表現する活動を設定して学びを深める場をつくっていききたい。今年度は重点教科を算数・特別活動とする。授業の中で、自分と友達の思いや考えのつながりを意識した学び合いの手立ての工夫を継続する。そして、誰もが認められる望ましい学習集団となるように、生徒指導の4つの視点を意識した授業づくりに努めていく。

2 研究の重点

(1) 研究の重点と具体的な手立て

重点1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- 指導の個別化や学習の個性化により、個に応じた指導を工夫する。
- 様々な他者とのかかわりを通して、学びを深めるための手立てを工夫する。

重点2 基礎的な知識・理解の確実な定着

- 「学びの基本」「教える基本」に基づいた共通実践を進める。
- 家庭学習の推奨(「家庭学習の手引き」による家庭との連携。)
- スキルアップタイムや授業での適切なICTの活用。

(2) 重点教科等の研究テーマ・重点・具体的な手立て

*研究の重点1を受けて、個別最適な学び・協働的な学びについての具体的な手立てとする。

研究テーマ	○研究の重点	・具体的な手立て
<算数科> 自立的・協働的に 問題を解決し、新た な問いに向かう子ど もの育成	○「 <u>分かった</u> 」「 <u>できた</u> 」を実感できるような、 <u>学習内容や問いの つながりを意識した授業づくり</u>	・学習内容のつながりを意識しながら学びを深めるための発問の精選や単 元構想の工夫 ・自立的・協働的に問題を解決し、学びを深めるための効果的なICTの活用
<特別活動> みんなでよりよい 学級・学校生活をつ くる特別活動	○よりよい <u>自分や学級・学校生活、人間関係を気付く学級活動</u>	・主体的な意思決定のための話し合い活動と、成果や課題、現在や将来の生 活を意識できるような振り返りの充実 ・問題意識を高める題材・課題設定の工夫と実践場面を意識した合意形成の ための話し合い活動の充実

(3) 研究の検証

- 授業での自己評価：授業の振り返りの記述を基にした自己の変容と達成度での検証
- 児童アンケート：研究の重点について到達目標の達成度での検証
- 教師アンケート：研究の重点について学びの自己評価での検証
- 県学習状況調査、全国学力・学習状況調査：各教科での達成度による検証
- 授業研究会：成果と課題の検証と次年度の重点についての提案